

バディを付帯したセーフティネット住宅への空き家の利活用(空き家・空き地の相談センター)

課題	空き家を利用したセーフティネット住宅にバディを付帯して円滑利用する
目的	空き家を使ったセーフティネット住宅の入居者と地域社会との摩擦を緩和するため、両者間でコミュニケーションを図るバディ(相棒)の役割を進化させる
取組内容	【1】すでに活動中のバディの役割を見直すため、空き家オーナー(貸主)、介護事業者等(借主)、バディ、外国人入居者、行政担当者にヒアリングを行い、その結果をバディ活動に反映させ、その報告書を自治体等に配布 【2】行政・宅建協会と共催の「説明会 & 相談会」で、セーフティネット住宅用の空き家を発掘
成果	【1】当初計画通りヒアリング・分析・報告書作成・配布完了。 リーフレット『外国人住民が地域で共に暮らすまち～地域が活性化する空き家の利活用』 【2】行政と共催で個別相談会を開催 シングルマザーシェルター運営法人や障害者相談支援センターと空き家確保業務で提携 【3】空き家を探している人の要望を掲載したホームページ「空き家探し隊」の開設

空き家オーナー＋住宅確保要配慮者(入居者)＋市域住民の間に立って、円滑なコミュニケーションを図るための「バディ」の要件を絞り込みができた

- 1. あくまでボランティアであること。
- 2. 入居者と利害関係者でないこと。
- 3. 入居者1名に対して、バディ1名ではなく、多対多で対応すること。
- 4. 入居者とバディは同じ建物に住まない方がよい。

空き家の借り手側の意見

- 1. 需要は多いが、貸し手がない、または借りられる状態ではない建物がほとんど

空き家の利活用促進に関するオーナー側の意見

- 1. 外国人など生活文化が異なる人には貸したくない
- 2. 介護事業者や医療法人が借り上げてくれるなら貸しても良い

